

受験記今昔

朝日高に「受験記」というものがあることをご存知でしょうか。受験を終えて希望校に合格を果たした卒業生が、後輩達に朝日で過した日々の大切な経験や自分の受験勉強のやり方、失敗談などを伝える体験集です。近年は毎年発行されていますが、発行されなかった時期もあり、知らない同窓生も多いようです。

このたび、校内資料に半世紀前の「受験記」もあることがわかりました。それらの中から、今昔3編を紹介します。

願ひて

昭和31年卒

岡山大学医学部

国定 寛之

僕は汽車通学だった為、時間的に苦労をした。朝は遅くとも7時に起きないと朝食が食べられない、家を出るのが7時半で学校につくのが8時40分前後、駅から学校迄はバスで通った。

夏休みに入ると、ゆるみが出たとたん寝込んでしまった。これはいけないと予定を変更して友人と海に数回程出かけたりして気楽に過ごした。だが、海に行っている時でも皆の口からしばしば受験に関する事が言われる。この様に楽しく遊んでいる時でさえ受験という事が頭をはなれないのである。

二学期が始まり皆相当勉強したような顔をしている。ここで負けては一大事、なにくそと思つて頑張った。

実力考査で、解をしくじつた。計算力の不足を思い知らされ、解く技巧ばかりして計算が確実に出来ないと精神的な打撃を受けた。

二学期には1年中で一番楽しい運動会がある。当日は破目をはずして最後の運動会を



心ゆくまで楽しんだ。又文化祭では友人2人と一緒にある実験をやった。この経験が現在非常に役立つている。

試験もあと数週間となると毎日の生活が浮ついて来るのを感じる。わざと余裕があるように行動し、自分で自分にいい聞かせる。ただ健康には細心の注意を払い、絶対に無理しないようにする。

最後に問題等についていうと、岡大に関する限りまだ見た事もないような変な問題はまず出ない。基礎的理解を必要とする問題がでる。だから普通の大切な所を正確に理解しておればそれでよい。又問題を解く時、全然解らないからといって放っておかず、ち

よつとも手をつけて置くと非常に有利である。

「昭和31年6月受験記第3集」から、平成17年に亡くなった国定寛之さんの受験記をご紹介します。受験生の心の奥底に流れている本当の気持ちや、不安、葛藤が伝わってきます。かなりの長文でしたが、抜粋させていただきます。

昭和31年卒 林 とし子

青葉の杜から

平成4年卒

東北大学工学部

川野 一義

私は一浪して東北大学に入りました。東北大学といつてもあまりピンとこない人がいるかもしれませんが、実際私も受けるまではあまりよく分かりませんでした。現役の時、一度仙台まで受けにいつて、

その環境のよさに大変感動しました。決して東北大学の校舎が近代的で新しいというわけではありませんが、大学の周りはずっとも落ち着きのある環境です。ではよいのがそれだけかというところではありません。理系、特に理工学部の研究施設などは大変すばらしく本気で自分がしたいことを勉強するには最適だと思います。

さて、大学に入るための受験勉強はというと、かなり苦しいこともあったけれど、やはり一番大事なものは、実力テストや模試で1点でも多く点をとりたいという執念だと思えます。誰でも必ず成績が上がったり、勉強しているのに点が上がらないということはあります。そこで一時的にやけになり、自分の力のなさをしみじみと感じるのもいいでしょう。それがいわゆる挫折感を味わうということなので

